



防災士

こばやし たかのり
小林 閣則 さん

MEMO

防災士とは、平成7年の阪神・淡路大震災で得た「大災害では行政機関も被災し、初動の活動に限界がある」との教訓から、災害発生直後と初期段階で「自らの力」と「近隣住民同士の協働」で難局を切り開く体制をつくるために創設された民間資格です。防災士は地域防災のリーダーとして、減災と地域防災力向上のために活動しています。

防災士育成を急務と考える市では、今年1月に資格取得の講座を開設し、新たに30人の防災士が誕生しました。

県内各所で講演や講座を数多く行い、防災の知識普及に取り組んでいる防災士の小林閣則さん。市が平成25年に策定した避難所開設運営マニュアルの立案にも協力しました。測量設計会社に勤務している小林さんは平成19年に防災士の資格を取得。動機は災害復旧に携わる中で芽生えた疑問でした。「復旧するだけでよいのか。災害が起きる前を知りたい」

当市の災害事情については「自然災害の少ないまちだから、市民が災害に疎い」と警鐘を鳴らします。「市外で被災することもあるでしょう。より多く減災するために、事前にどういうことをすればよいか意識してほしい」と望み、「自分が助かることから始まる」と、自らを守る行動である『自助』の重要性を説きます。

市民が防災について取り組む手始めとして「まず、被災時にバラバラの家族が連絡を取り合う方法を確認してください。そして駒らん情報センターなど災害情報入手する登録をしっかりとしておくこと。次に、非常持ち出し袋を用意してください」と、被災して24時間程度有効な「1次避難袋」を見せてくれました。ポイントには、背負えて、必要最小限であること。大抵2日目には救援が届くから大丈夫です。

次から次へと防災のキーワードを

語る小林さん。その熱心さの源は「私が知りたかっただけ」と話す笑顔に、「みんなに知ってほしい」という願いが垣間見えます。「災害は忘れた頃にはなく、いつでもやって来る」学ぶほどに危機感と当事者意識の重要性を感じている防災士の活躍はこれからさらに求められます。



- 1 水
 - 2 食料
 - 3 発煙筒とローソク
 - 4 タオル・三角巾・マスク
 - 5 手袋
 - 6 ライト付きラジオ・ビニール袋
 - 7 包帯・薬・ハサミ
 - 8 アルミシート
 - 9 携帯電話蓄電池
 - 10 ばんそうこう
 - 11 ロープ・ライト・IDカプセル
- ※性別や年代、個人の状況によって必要な物を準備しましょう。

小林さんが勧める一次避難袋「1人につき1つ用意してほしい」と話します